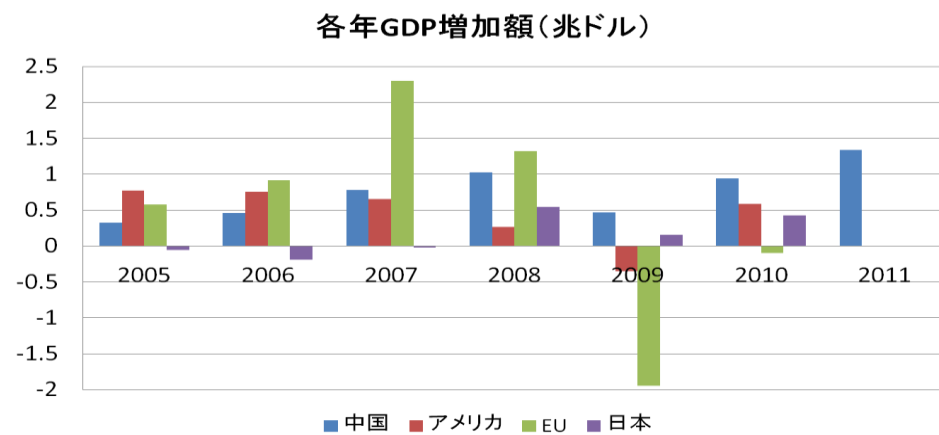
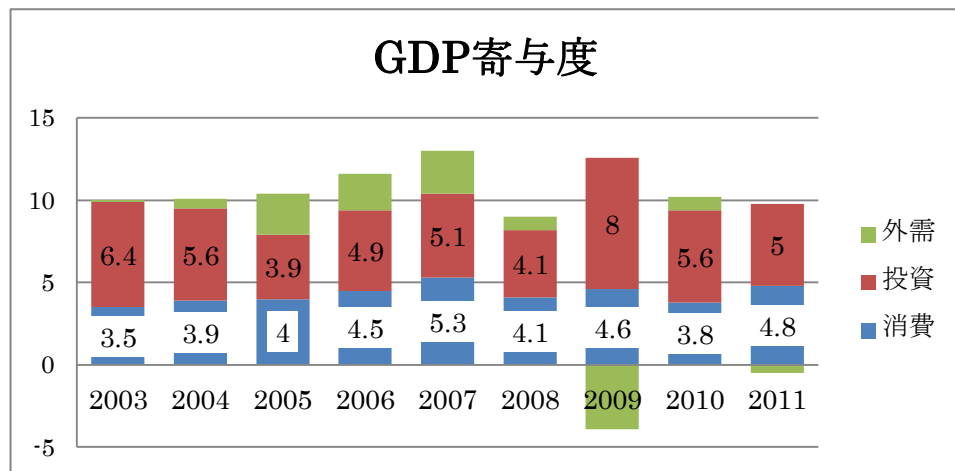


17日、国家統計局は2011年第4半期のGDPを発表。

第4四半期のGDP伸び率は実質8.9%と市場予想(8.7%)を上回り、2011年通年では9.2%となった。ドルベースでは7兆2600億ドルで対前年比1.3兆ドルと巨額の増加幅となっている。成長率を寄与度別に見てみると、2008年のリーマンショック以降外需がなくなる中で2009、2010年と投資に大きく依存し、2011年は投資が減った分消費が成長を補っていることがわかる。

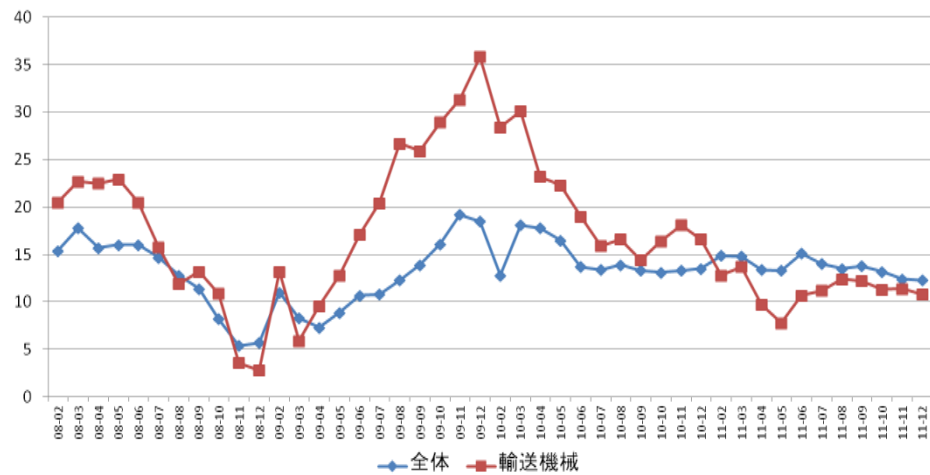


2012年は引き続き外部環境が悪い中で外需が低迷すること、インフレ抑制及び住宅価格抑制のための金融引締めで投資が伸び悩むことから、外需・投資は当面更に落ち込むことになりそうである。そうした中で消費が今後中国経済をけん引する役割を果たしていけるかがより一層重要になるだろう。商務部の沈報道官は18日、今年度の重点は物流環境の整備等を通じた消費の拡大であると述べたと伝えられており、消費の拡大により内需主導の成長を確立できるかが成長維持のための試金石となるであろう。

17日、国家統計局は12月の工業生産を公表。

12月の付加価値ベース工業生産高は11月より0.4ポイント上昇して12.8%の増加となり、通年では13.9%の増加となった。なお、昨年末、工業情報の苗部長は2012年の工業生産付加価値増加率目標を今年より低い約11%に設定する旨発表している。

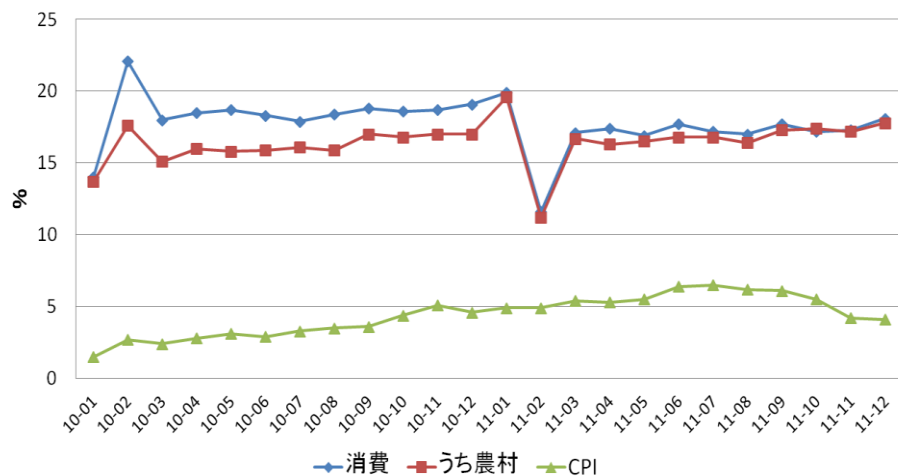
鉱工業付加価値



17日、国家統計局は2011年12月の小売販売総額を公表。

12月の小売販売総額は春節を前にした押し上げ効果が働き18.1%増の1兆7440億元、大規模店だけで見れば23.2%増の9053億元となった。秋以降CPIが低下する一方で小売販売額は増加傾向にあり、実質消費の伸びが足もとで増えているといえよう。なお、2年間の趨勢を見ると下記のように農村の小売販売伸び率が都市部に徐々に追い付きつつある点も興味深い。

小売販売額(名目・増加率)

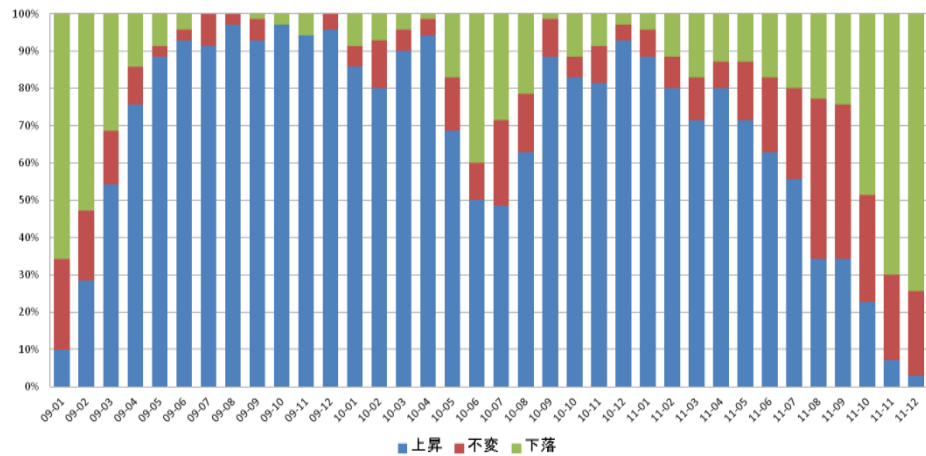


18日、国家統計局は12月の70都市

12月の70都市の住宅価格は、前月より価格が下落したのが56都市、変化なしが16都市となり、上昇したのは貴州省貴陽市と甘肅省銀川市の2都市のみとなった。

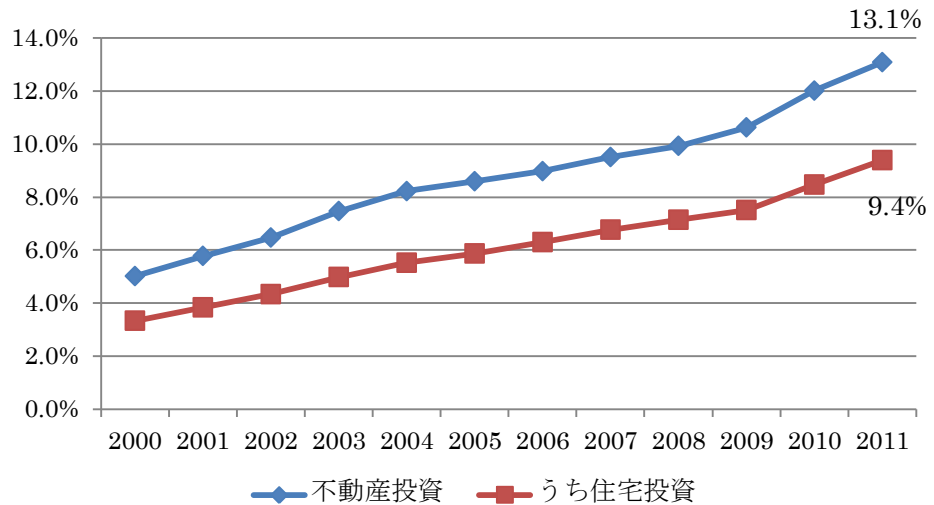
住宅価格を  
発表。

70都市の住宅価格



なお、2011年通年での不動産開発投資額は対前年比27.9%増の6兆1740億円（うち住宅投資は30.2%増の4兆4308億円）であった。増加率は2010年より低下したとはいえ、不動産開発投資の対GDP比は13.1%にまで上昇しており、一定の速度調整が必要な局面が続くようである。

不動産開発投資の対GDP比



◎台湾総統選挙で馬英九氏が再選

14日に行われた選挙の結果、馬英九氏が得票率51.6%、約80万票差で再選された。同時に行われた立法委員選挙でも与党国民党が64議席と過半数を維持し、今後4年間、台湾政治は安定与党体制の下に行われることが確定した。なお、対立候補だった蔡英文民進党党首は党首辞任を表明した。

今回、中国大陸では開票速報がリアルタイムで人気ポータルサイト「新浪」「騰訊」等で報じられ、多くのネットユーザーがマイクロブログ等を通じて馬英九候補に声援を送った。

かつて李登輝時代には大陸で同氏の名前を出すことすら禁句扱いであり、陳水扁時代の選挙も結果が出てから一言紹介がある程度の扱いだったことを思うとまさに隔世の感がある。ネット書き込みの中には「なぜ遠くの台湾では選挙があるのに、うちの市長は選挙がないのか」といったものも見られ、今回、台湾での選挙を通じて多くの大陸民が選挙というものを身近に感じた影響はかなり大きかったのではないだろうか。（特に候補者の演説や支持者のコメントが同じ中国語で流れ込んだことは非常に大きいといえよう。）



←日本のネットでも行わなかった開票速報を大陸のポータルサイトは実施した。（新浪）



←「最後のお願い」をする蔡英文候補。（13日午後、新北市板橋で）

#### ◎中国の労働力人口比率が減少に転じる

国家統計局は18日、2011年末時点の人口を発表した。総人口は2010年末より644万人増の13億4735万人、出生率は千分の11.93、死亡率は千分の7.14とそれぞれ0.03ポイント上昇した。

注目されるのは15～64才のいわゆる生産年齢人口（労働力人口）比率が74.4%と0.1ポ

イント減少に転じたことであろう。元々2012～2015年の間に減少に転じるとの予想が多かったと記憶するが、それより早く、昨年から既に減少に転じたことが明らかになったわけである。同時に、既にお伝え済みのとおり都市人口比率が1.32%上昇して51.27%となり、中国の歴史上初めて農村人口比率を上回った。

(以上)

**Disclaimer:** 本資料中の数字は注意してチェックしていますが正確さを保証するものではありません。

文章中意見にかかる部分は個人的見解でありいかなる組織の意見でもありません。